

吹田市胃がん検診（胃内視鏡検査）同意書

【胃がん検診の目的と方法】

胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、早く治療する目的で行われています。

その方法には、バリウムを用いる方法（胃部エックス線検査）と胃カメラを用いる方法（胃内視鏡検査）があり、いずれもその効果が証明されています。また、両者の方法には良いところと悪いところがあります。

	胃部エックス線検査（バリウム）	胃内視鏡検査（胃カメラ）
利点	<ul style="list-style-type: none"> 胃の全体像が把握できます。 	<ul style="list-style-type: none"> カメラで胃の粘膜を観察できるため、小さな病変部だけでなく、出血なども詳細に確認することができます。
欠点	<ul style="list-style-type: none"> エックス線による放射線の被曝（ひばく）があります。直接撮影と間接撮影で差はありますが、自然のなかで浴びる放射線と同程度なので、健康に大きな影響を及ぼすことはありません。 バリウムの誤飲や便秘などの偶発症が起きることがあります。 バリウムアレルギーの方は、受けることが出来ません。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率的には極めて低いですが、内視鏡を入れることで感染したり、胃や食道を傷つけて出血したり、穴を開けてしまう「穿孔（せんこう）」が起きたりする可能性があります。 薬に対するアレルギーのある人は医師に必ず相談してください。検査の際に使用する薬によって、副作用が起きることもあります。

参考資料：公益財団法人 日本対がん協会

【胃内視鏡検査の方法】

口（もしくは鼻）から胃内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を観察し、病変を探します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ（生検）、細胞の検査を行うことがあります。また、色素を散布して、病変を見やすくする場合があります。

なお、生検が行われた場合は、生検については保険診療として別途請求があります。当日は健康保険証、その他医療受給者証を持参してください。また、生検により粘膜に傷ができますので、検査後当日の食事はやわらかい消化の良いものを食べてください。過激な運動、飲酒、長湯、旅行なども避けてください。

【偶発症（検査によってまれに生じる不都合な症状）】

偶発症が発生する頻度は、胃内視鏡検診では10万件に87件と全国調査により報告されています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。現在、胃内視鏡検診による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。

胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

- ① 胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔（穴があくこと）
- ② 生検による出血、穿孔
- ③ 薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
- ④ 検査前からあった疾患の悪化（症状の出ていなかった疾患も含む）

なお、当施設では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。

令和 年 月 日 医師名

上記の事項について、説明を受け、十分に理解しましたので、その実施に同意いたします。

医師が必要と判断した場合は、生検を行うことに同意します。

今回の胃がん検診では、生検を行うことに同意しません。

令和 年 月 日 受診者署名